Ⅱ　研究開発の概要

１．研究開発の課題

１）課題

いじめや不登校の予防及び学校復帰支援を行うための小中連携した教育課程とその指導方法・評価及び学校、教職員、児童・生徒集団のあり方についての研究開発

２）課題設定の理由

中学校で不登校状態にある子どもは、小学校段階からその兆候（遅刻、欠席）があらわれることから早期より、子どもの実態を把握し、不登校児童・生徒等に支援を行っていく必要がある。

また、社会の変化にともない、子ども自身のストレスをコントロールする力や人間関係をつくる力が弱くなっている。そのような中で、将来の展望や学ぶことの意義を見い出すことができにくくなっている。その上、ひとり親家庭の率がさらに高率になり、経済的にもきびしい家庭が増えている。

松原第七中学校区（以下、松原七中校区とする）では、幼･小･中が連携して取組を進めてきたが、松原七中校区の子どもたちは、次のような傾向を抱えており、さらなる連携が必要となっている。

・自分の気持ちや思いを伝えにくい。
・外見を意識し、他人と同じことをしていこうとする傾向(「同調圧力」)が強く、自信のなさが見られる。
・力関係や「物」に頼った集団をつくりがちである。
・周りの気持ちを推しはかった行動がとりにくい。
・自分の行動が周囲にどのように影響するかという想像力が弱い傾向にある。
・本音を出さず､他人を信じられないことがある。
・学習意欲が低い傾向がある。
・親子の会話が少ない傾向がある。

このような現状と課題を受けて、松原七中校区として、「めざす子ども像」を以下の３点にまとめ設定した。

○人の思いを受け止め、自分の思いを表現できる子ども
○自分を見つめ、自分で考えようとする子ども
○人を信じ、人とつながろうとする子ども

松原七中校区として、めざす子ども像を追求するために、
・子ども一人ひとりに対して、「学校での心の居場所づくり」をめざす。
・様々な学びのスタイルや、特色と魅力ある学校行事等の工夫・改善を行う。
・いじめや不登校を予防し、不登校生の学校復帰をめざす。
などの取組をすすめる必要がある。

そのため本研究では、
○松原第七中学校（以下、松原七中とする）とともに、恵我小学校（以下、恵我小とする）・恵我南小学校（以下、恵我南小とする）においても、ストレスマネジメントやソーシャルスキルを系統的に学ぶ「人間関係学科(中学校：略称HRS、小学校：略称　あいあいタイム)」を設定する。
○松原七中校区の小・中学校が連携して、義務教育９年間の「人間関係学科(HRS、あいあいタイム)」の学習プログラムを研究開発する。
○松原七中においては、完全学校（教室）復帰への中間ステーションとしての「ほっとスペース」を充実し、柔軟で、多面的な教育課程を編成する。そして、そこでのノウハウを小学校での取組に生かす。

また、このような、松原七中校区の研究・実践にとどまらず、本市教育委員会が実施する「心の窓にアクセス事業」(情報機器を活用した在宅支援の事業)とも連携を図りながら、学校と地域・家庭を結び、子どもたちの育ちを支援する総合的なネットワークの構築とともに、協働した運営をめざしたい。

以上の取組を通じて、いじめのない、いじめを解決できるような人間関係の向上と居場所のある集団づくり(学校、学年、学級)をすすめ、また、不登校生の学校復帰の道筋を明らかにするとともに、子どもたちのストレスマネジメント能力の育成をはかる等、生涯にわたって活用できるしなやかな精神を培い、「生きる力」を育むことをめざす教育課程の研究・開発を目的とする。

２．研究の概要

松原七中がこれまで研究開発学校として開発した、人間関係学科(略称 HRS)の学習プログラムを改善し、小・中学校９年間の発達段階に応じた新設教科「人間関係学科」及び不登校生を対象とした「ほっとスペース」を設置し、いじめの未然防止や不登校の予防、不登校生の学校復帰を支援するための教育課程及びその指導方法や評価、学校・教職員・子ども集団の在り方について小・中連携して研究を行う。

また、その実践を通じてカリキュラムの有効性の検証を行い、いじめ調査及び、不登校児童・生徒の小学校からの経年変化や長期欠席児童・生徒の欠席状況の変化等を分析する。

１）研究仮説

①「人間関係学科(HRS、あいあいタイム)」の新設

小学校においては、自分に自信が持てない、自分の気持ちを正しく伝えることができない、感情を押さえきれない等、様々な課題が浮き彫りになってきている。その課題を克服するため、「非攻撃的・協調的に自己主張し問題を解決する力」、「自己の感情や行動をコントロールする力」を育てること等を目標とする「人間関係学科」を設置する。そして、遊びや様々な集団活動、その中での友達とのふれあいを通して、一人ひとりの違いに気づき、違いを認め合える感性を育成していく必要がある。そのことは同時に、学級・学校が一人ひとりにとっての居場所となることであり、「いじめをしない、されない、許さない力」を育成することにつながると考えている。

また、中学校では、特に不登校を改善・予防するために「自らのストレスに気づき、ストレスを自己コントロールする力」「自己理解を通して、相手を受け入れ、自己表現しながら温かい人間関係をつくる力」を育てることは急務だと言える。これらの力は、もちろん「道徳」や「特別活動」、「総合的な学習の時間」など学校教育全般の中で育成される面もあるが、さらに、子ども一人ひとりの現状を分析し、年間を通して系統的に実施する必要がある。

七中においては、平成１５年度から１７年度の３年間において、ライフスキルの習得をめざす学習を通して、自分を大切にし、良好な人間関係をつくり出すことを目標とする「人間関係学科(HRS)」の中学校３カ年間(年間３５時間、合計１０５時間)の学習プログラムを作成し、その作成した学習プログラムにのっとって、指導を行ってきた。

今後、これまで開発した１０５時間のプログラムを、小学校６年間の接続における観点やいじめの予防や解決する力を育成する観点からも改訂を図っていく。

② 中学校「ほっとスペース」における弾力的な教育課程の編成

・不登校生が完全学校復帰をめざす中間ステーションとしての「ほっとスペース」では、音楽や美術等情操教育の時間を多めにとり、対象生徒の興味や関心に応じて教科の時間を弾力的に編成し、学ぶ意欲を高め、学力への自信がもてるようにする。

・原則的には、国語・社会・数学・理科・英語・「総合的な学習」の時間から、合計２４０～２６０時間を削除し、「人間関係学科」を１９０時間、そして音楽・美術を各７０時間実施する。そして、教科等の指導と並行して、スクールカウンセラーや養護教諭とも連携しながらストレスマネジメントや人間関係づくりのプログラムを通して、学校復帰をめざし、地域の人々との出会いや、ボランティアなど地域活動への参加も考慮する。

・不登校生が完全学校復帰をめざす、中間ステーションとしての「ほっとスペース」では、一人ひとりの生活や心身の状況を把握し、入級時期等も考慮し、対象生徒一人ひとりに応じた形で、弾力的な教育課程を編成する。

２）教育課程上の特例

○小学校の開設時間は３年～６年で「総合的な学習の時間」より３５時間を削減し、「人間関係学科」を年間３５時間実施する。
なお、１年～２年は教育課程を変更せず、特活等の時間内で１５時間程度「人間関係学科」を実施する。

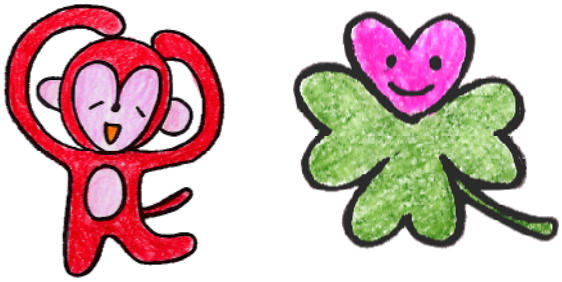
・６年間のカリキュラムを系統的に編成し、計画的に実施する。

○中学校の開設時間は「総合的な学習の時間」より３５時間を削減し、全学年「人間関係学科」を年間３５時間実施する。

・３年間のカリキュラムを系統的に編成し、計画的に実施する。

３）研究計画

第一年次	**研究目的・研究仮説・研究方法の調査と具体化** ・児童・生徒の実態を分析し、育成する子ども像を明らかにするとともに先進的な研究と実践についての調査・研究（校区合同あいあいプロジェクトチーム） ・教職員のカウンセリングマインドとスキルの向上をめざした校内研修会・校区合同研修会の実施 ・９年間の「人間関係学科(HRS、あいあいタイム)」の学習プログラムづくり ・中学校「ほっとスペース」のカリキュラム整備と人的・物的両面の環境整備 ・カリキュラムの実施と結果の分析 ・２年次のカリキュラム等の検討及び年間指導案の作成 ・不登校児童・生徒への「心の窓にアクセス事業」等活用の在り方 ＜人間関係づくりや学習支援プログラムの研究開発＞ ・地域、保護者、関係諸機関と協働した指導とそのネットワークづくり
第二年次	**カリキュラムの本格実施とデータの蓄積** ・教職員のカウンセリングマインドとスキルの向上をめざした校内研修会、校区合同研修会の推進 ・９年間の「人間関係学科(HRS、あいあいタイム)」の学習プログラムづくり及び指導方法の確立と評価規準の作成 ・ひきこもり傾向の不登校児童・生徒への「心の窓にアクセス事業」等活用の強化 ＜学習支援プログラムの確立や担当教員の育成＞ ・中学校「ほっとスペース」の指導方法の充実 ・地域、保護者、関係諸機関と協働した指導とネットワークの推進 ・中間まとめの研究発表を通して、研究の有効性の検証と最終年度の課題の明確化 ・最終年度の学習プログラム等の検討
第三年次	**調査・研究の実施と成果のまとめ、及び、報告** ・９年間の「人間関係学科(HRS、あいあいタイム)」のカリキュラム・指導方法・評価規準のまとめ ・中学校「ほっとスペース」のカリキュラムや指導方法等のまとめ ・情報機器を活用した総合的な支援プログラムの確立と担当者の役割の確立 ・地域、保護者、関係諸機関と連携した指導の実践とまとめ 特に「ボランティア手帳」について ・最終年度の研究発表会を通して新しく設定した教科等の可能性と課題について報告 →　成果と課題は報告集等にまとめて収録



あいあいタイムのキャラクター

ＨＲＳの教具を収納している通称ＨＲＳ部屋